



**HEPHAIST**

東証スタンダード：6433

# 2026年3月期 決算説明会

6月3日(水)

ヒーハイト株式会社

【第65期 経営方針】

改善と進歩

## 目次

1. 2026年3月期 決算概要
2. 2027年3月期 業績予想
3. 中期経営計画の遂行・実現
4. 新経営ビジョンについて／今後の展開
5. 直近のTOPICS

# 1. 2026年3月期 決算概要

➤ **連結売上高：16億3千6百万円** 前年同期比 6億8百万円（27.1%）減

- 直動機器は、産業用機械業界の需要回復の兆しが見え始めてきたが、累計では産業用機械業界の需要回復遅れが影響し、売上高 10億5千8百万円（前年同期比22.5%減）
- 精密部品加工は、新たな受託加工の取り込みに努めましたがレース用部品のレギュレーション変更に伴う影響を受け、売上高 3億4千5百万円（前年同期比49.2%減）
- ユニット製品は、半導体関連装置向け案件への対応によりステージ製品の売上が増加したことに加え、既に実施していた球面軸受の販売価格引上げの効果が寄与したことにより、売上高 2億3千2百万円（前年同期比16.9%増）

➤ **連結経常損失：2億9千9百万円** 前年同期比 1億9百万円（-%）減

- 売上トップラインの減少が大きな要因
- 原材料価格や物流コストの増加継続
- 現在の事業環境を踏まえ、減損損失413百万円を特別損失に計上

- 2026年に入っても世界的な設備投資の慎重姿勢が続いている影響で、力強さを欠く状況が続いており、売上高が前年対比で減少している。

単位：百万円	2025年3月期 (実績)	2026年3月期(実績)				対前年増減額 (前年比)	2026年3月期 修正予想 ※2026年11月12日発表	対予想増減額 修正予想比
		上期	下期	通期	構成比			
売上高	2,245	846	790	1,636	100.0%	△608 (△27.1%)	1,603	33 (2.1%)
売上 総利益	333	110	87	197	12.1%	△136 (△40.8%)	223	△25 (△11.4%)
販管費及び 一般管理費	455	253	206	459	28.1%	4 (1.0%)	439	19 (4.5%)
営業損失	△121	△142	△119	△262	△16.0%	△140 ( - %)	△216	△45 ( - %)
経常損失	△189	△176	△122	△299	△18.3%	△109 ( - %)	△295	△3 ( - %)
当期純損失	△203	△219	△498	△718	△43.9%	△515 ( - %)	△340	△377 ( - %)

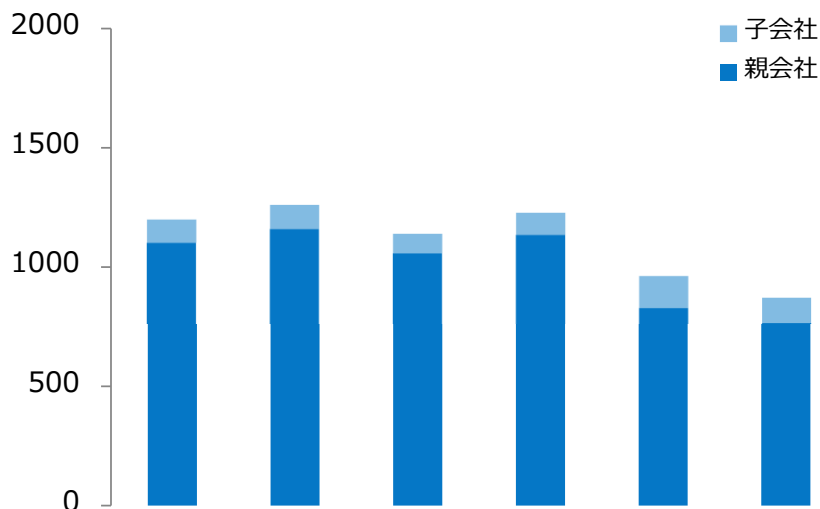
- 直動機器は、産業用機械関連の需要回復の兆しが見え始めてきたが、累計では産業用機械関連の需要回復の遅れが影響し、減少
- 精密部品加工は、新たな受託加工の取り込みに努めましたがレース用部品のレギュレーション変更に伴う影響を受けて減少
- ユニット製品は、半導体関連装置向け案件への対応によりステージ製品の売上が増加したことに加え、既に実施していた球面軸受の販売価格引き上げの効果が寄与したことにより増加

単位：百万円	2026年3月期 第1四半期	2026年3月期 第2四半期	2026年3月期 第3四半期	2026年3月期 第4四半期	2026年3月期 通期
売上高	464	382	382	407	1,636
営業損失	△49	△92	△55	△63	△262
経常損失	△58	△118	△71	△50	△299
四半期(当期)純損失	△45	△174	△72	△426	△718

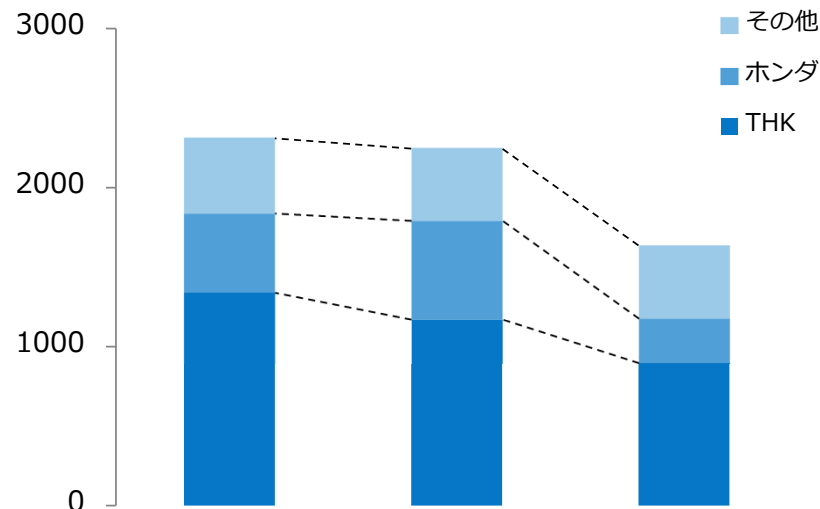
品目別	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
直 動 機 器	275	59.3%	271	70.9%	248	64.9%	264	64.8%	1,058	64.7%
精 密 部 品 加 工	104	22.5%	65	17.0%	86	22.6%	89	21.9%	345	21.1%
ユ ニ ッ ト 製 品	84	18.2%	46	12.1%	47	12.5%	54	13.3%	232	14.2%
合 計	464	100.0%	382	100.0%	382	100.0%	407	100.0%	1,636	100.0%

## 売上高 及び 主要売上先の推移

- 産業用機械関連の需要回復遅れ
- 中国市場の受注停滞の継続
- レース用部品のレギュレーション変更に伴う影響



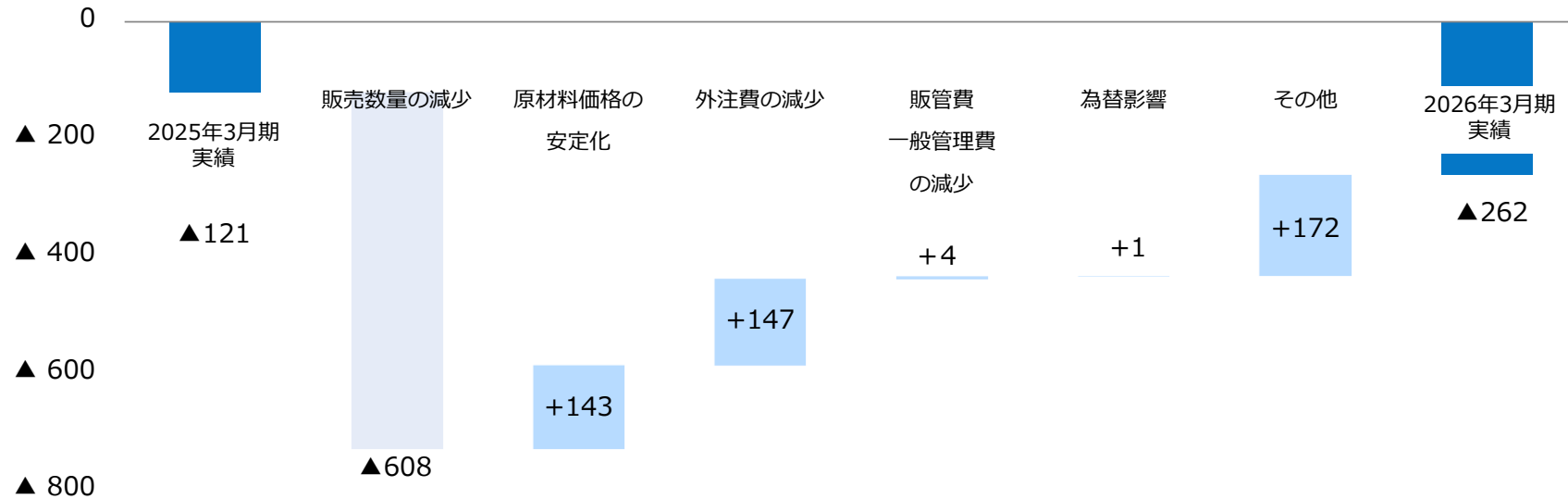
単位：百万円	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	2025年3月期 上期	2025年3月期 下期	2026年3月期 上期	2026年3月期 下期
子会社	97	101	82	93	134	106
親会社	1,102	1,159	1,058	1,135	829	766
内部取引	△73	△77	△64	△59	△117	△82
合計	1,126	1,183	1,076	1,168	846	790



単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
THK	1,341	1,173	902
ホンダ	494	616	277
その他	475	456	457
合計	2,310	2,245	1,636

- 営業利益は売上高の大幅な減少が主因となった一方、材料費・外注加工費の減少や労務費・製造経費の抑制により影響が一部緩和されました。

(単位：百万円)



貸借対照表

単位：百万円	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (実績)	増減額	コメント
流動資産合計	2,394	1,978	△415	仕掛品 81百万円増 現金及び預金 156百万円減 電子記録債権 300百万円減
固定資産合計	2,613	2,160	△453	有形固定資産 485百万円減
<b>資産合計</b>	<b>5,007</b>	<b>4,138</b>	<b>△868</b>	
流動負債合計	859	777	△82	短期借入金 250百万円増 支払手形及び買掛金 54百万円減 株主優待引当金 55百万円減 電子記録債務 133百万円減
固定負債合計	1,329	1,260	△68	リース債務 固定 51百万円増 長期借入金 127百万円減
<b>負債合計</b>	<b>2,188</b>	<b>2,037</b>	<b>△151</b>	
純資産合計	2,818	2,101	△717	※連結自己資本比率50.8%
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,007</b>	<b>4,138</b>	<b>△868</b>	

単位：百万円	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (実績)	コメント
営業活動によるCF	△183	△162	(プラス面) 売上債権の減少・減損損失の計上 (マイナス面) 税金等調整前当期純損失
投資活動によるCF	△51	△25	保険積立金による減少
財務活動によるCF	△99	30	借入金の増加
現金及び現金同等物に係る 換算差額	8	2	
現金及び現金同等物の 増加額(△は減少)	△325	△156	
現金及び現金同等物の 期末残高	559	402	

## 2. 2027年3月期 業績予想

## 2027年3月期 業績予想 及び 品目別売上高予想

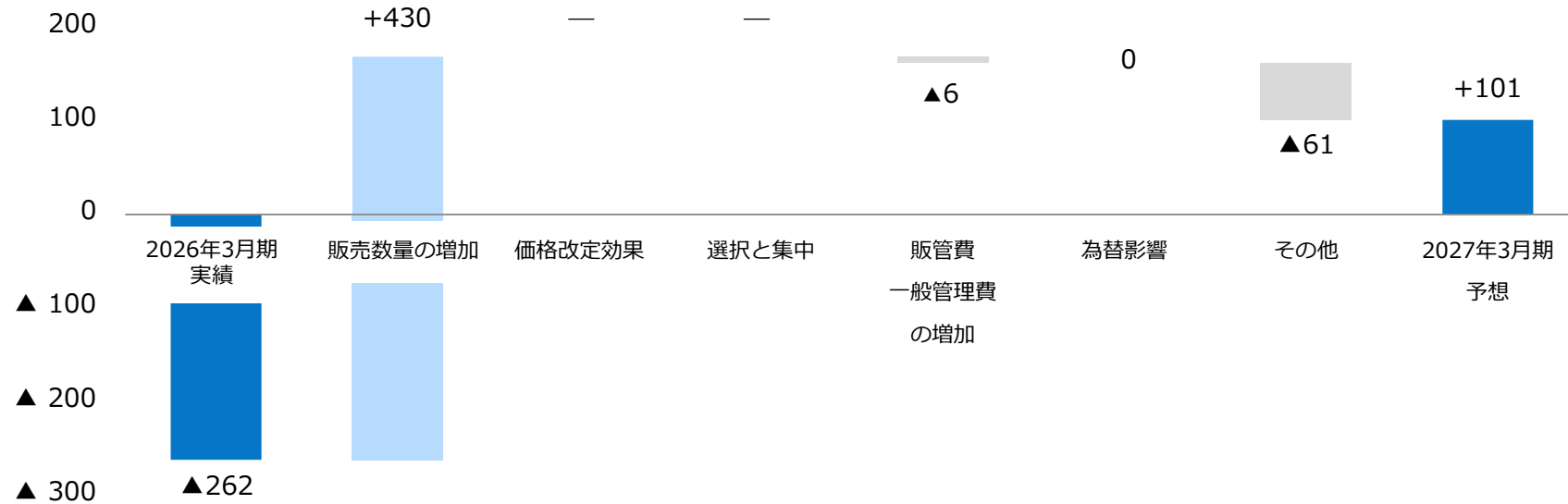
- ・自動化ニーズへの対応として生産設備を最大限活用し直動機器の生産・販売を強化するとともに、高精度加工技術を基盤に高付加価値製品へ集中し、収益基盤の強化と持続的成長を図ります。

単位：百万円	2026年3月期 実績	2027年3月期		2027年3月期 予想	前期比
		上期 予想	下期 予想		
売上高	1,636	976	1,090	2,066	26.3%
営業利益又は営業損失	△262	10	90	101	－%
経常利益又は経常損失	△299	15	83	98	－%
当期純利益又は当期純損失	△718	12	80	92	－%
売上高営業利益率	△16.0%	1.1%	8.3%	4.9%	20.9P

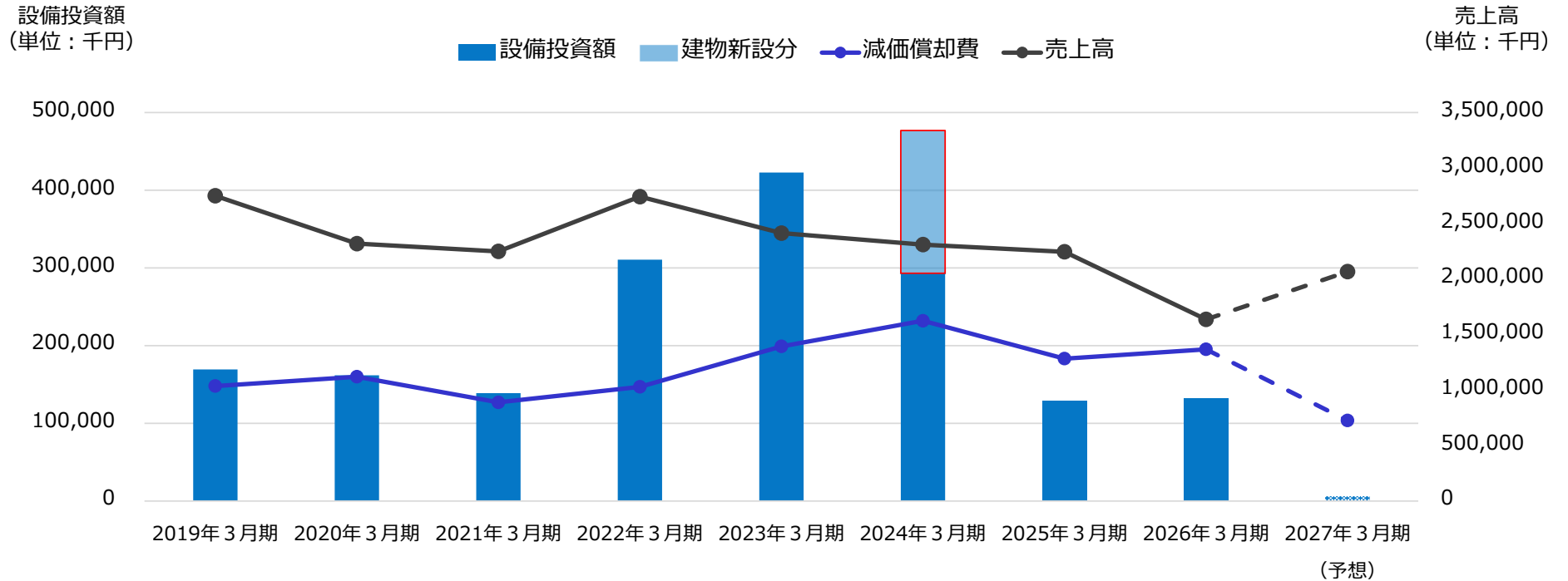
品目別	2026年3月期 実績	2027年3月期		2027年3月期 予想	前期比
		上期 予想	下期 予想		
直動機器	1,058	687	666	1,353	27.9%
精密部品加工	345	170	262	432	25.2%
ユニット製品	232	118	161	280	20.6%
売上合計	1,636	976	1,090	2,066	26.3%

- 半導体需要の高まりや人手不足に伴う自動化に向けた設備投資の増加などにより、経済活動の正常化に向けた動きは継続していくものと想定
- 為替社内レートは、人民元22.50円

(単位：百万円)



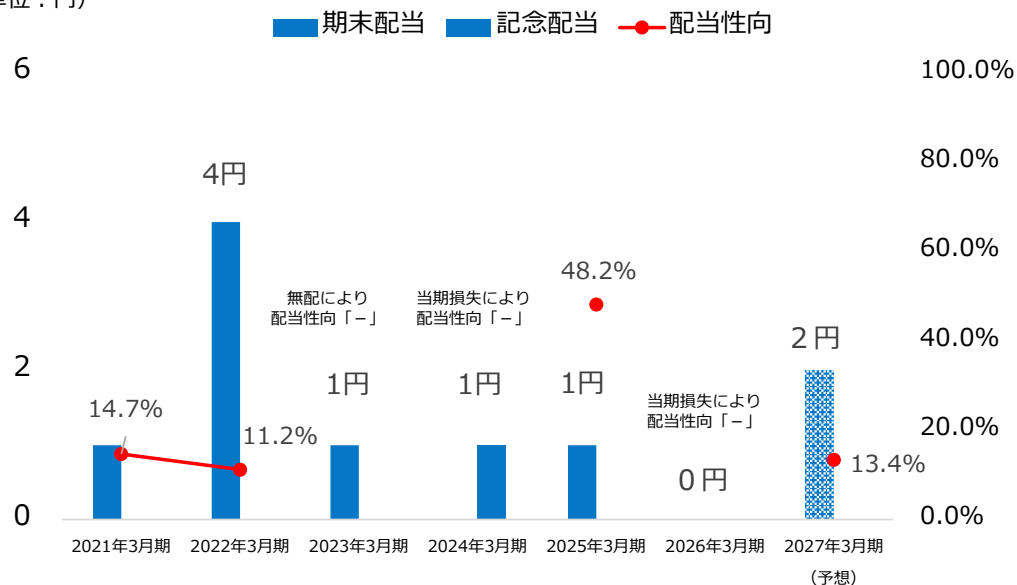
- 2023年3月に直動機器増産のための工場A棟の稼働を開始し、中期計画に必要な設備投資を実行し、生産の増強を実施
- 2025年3月期の期首から減価償却方法を定率法から定額法に変更しており、その結果、減価償却費が減少し、平準化
- 2026年3月期に固定資産の減損を実施したことにより資産残高が圧縮され、来期の減価償却費は大幅に減少し、費用構造の軽量化が進む見込み



### <配当予想>

- 株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、配当を行うことを株主還元に関する基本方針としております。

(単位：円)



### <株主優待制度の内容変更>

- 変更の理由

当社は、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を示すとともに、当社株式に対する投資魅力を高め、より多くの皆様に当社の事業へのご理解を深めて頂くことを目的として株主優待制度を実施しております。

この度、株主還元の公平性を目的とする配当等による利益還元とのバランス、また、今後の業界動向を見据えた成長投資への再配分等を考慮し、基準日2026年3月末日（優待発送6月末分）より以下のように変更させていただきます。

- 変更の内容

【変更前】

保有株式数	継続保有期間	優待内容
100株以上	-	Q U Oカード 3,000円分

【変更後】

保有株式数	継続保有期間	優待内容
100株以上、1,000株未満	-	なし
1,000株以上	1年以上（※1）	デジタルギフト（※2） 5,000円分

※1. 今期のみ基準日2026年3月末日時点の株主名簿に記載又は記録された当該株式数を保有している株主様を対象といたします。また、来期以降は継続保有期間1年以上とし、株主名簿基準日（3月末日及び9月末日）の株主名簿に同一株主番号で連続3回以上の記載、又は、記録された当該株式数を保有している株主様を対象といたします。

※2. デジタルギフトの内容につきましては、Q U Oカード P a y を予定しております。

- 変更の時期

2026年3月末日の基準日に株主名簿に記載された株主様より適用いたします。

### 3.中期経営計画の遂行・実現

- 現在進めている中期計画『Hephaist Vision65』を着実に遂行することにより、各投資の成果を出し、2027年3月期には修正計画として売上高2,066百万円、営業利益101百万円の達成を目指します。

中期経営計画 2024年3月期（第62期）～2027年3月期（第65期）売上高28億円へ

	2024年3月期		2025年3月期			2026年3月期			2027年3月期
	計画	実績	計画	修正計画	実績	計画	修正計画	実績	修正計画
売上高	2,271百万円	2,310百万円	2,452百万円	2,257百万円	2,245百万円	2,486百万円	1,603百万円	1,636百万円	2,066百万円
売上総利益	315百万円	315百万円	505百万円	352百万円	333百万円	569百万円	223百万円	197百万円	555百万円
売上総利益率	13.9%	13.7%	20.6%	15.6%	14.9%	22.9%	13.9%	12.1%	26.9%
営業利益または営業損失	▲163百万円	▲158百万円	23百万円	▲115百万円	▲121百万円	68百万円	▲216百万円	▲262百万円	101百万円
営業利益率	-	-	1.0%	-	-	2.8%	-	-	4.9%

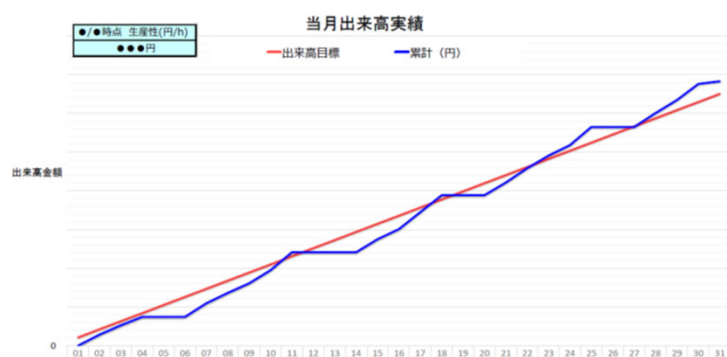
- 中期経営計画については、每期ローリング方式で更新して参ります。
- 当初の計画通り、設備投資・生産数量の確保による安定生産、人的資本投資等への成長投資を継続し、増産に対する生産体制を整え、戦略在庫も積んできたことにより、受注回復に備えております。
- 製品群の見直し（スクラップ&ビルド）・・・低採算製品からの撤退を検討し、リソースを高収益製品に集中することを進め、採算性を向上させる予定です。
- 2024年3月期は、計画に比べ受注回復が遅れたこと、原価が増加したことにより損失を計上しました。
- 2025年3月期は、上半期まで受注回復が遅れ、下期受注増の見込でございましたが需要業界全体の回復にいまだに時間を要するため、損失を計上いたしました。
- 2026年3月期は、原材料価格や物流コストの増加により損失を計上しました。
- 2027年3月期は、計画を見直し進んで参ります。

### <中期経営指標>

収益性 : 連結営業利益率 10% 以上 → 目標 : 2027 年 3 月期達成  
 効率性 : 連結 ROE 8%以上 → 目標 : 2027 年 3 月期達成  
 配当性向 : 連結配当性向 30%

### <A.直動機器の増産増販>

- 成長戦略として中期的な自動化関連の需要増加に対応するため、「スマート生産プロジェクト」の一環とする設備投資を行い、生産を上げ、売上を伸ばして行きます。
- 利益率の改善は、設備投資のピークアウトによる償却費の減少及び、電力費削減等のコスト削減に加え、生産数量を確保し、安定的に生産することで、固定費率の減少を実現することにより利益回復を図って行きます。
- 半導体市場は、2024 年後半は再び徐々に市況が良くなっていき、2025年には過去最高の市場規模となる予想。
- 海外展開、協業への取組。



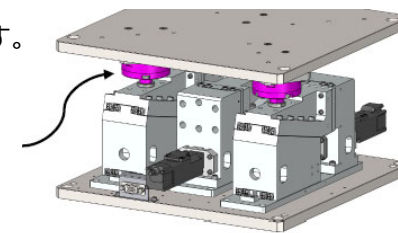
### <B.精密部品加工の売上確保>

- ホンダグループのモータースポーツ参戦のレース用部品供給継続による収益を確保します。
- 強みを生かした新たな精密部品受託加工への取組。



### <C.ユニット製品の販路拡大>

- 仕様の標準化による設計効率化及びお客様への対応時間を短縮し、販売強化します。
- 新製品NAF HW シリーズの販売を拡販し、更に製品ラインナップ増加を図ります。
- 新たな海外市場への展開を図ります。



### <株主還元の強化>

- ・ 上場20周年記念配当の実施。
- ・ 配当方針として、連結配当性向30%以上とする。
- ・ 自己株取得を有効に活用し、人事戦略等に使用する。
- ・ 社員持株会奨励金付与率を5%から50%に増額し、社員の株式購入機会の増加を促進し、安定的な株式購入需要を確保することで、出来高の増加に寄与し、株式市場での流動性向上を図る。

### <IR活動の充実>

- ・ より多くの投資家の皆様に当社の情報をお伝えするため、今まで以上にIR活動を強化して参ります。具体的には、以下の取組を中心に情報発信をより一層推進して参ります。
- ・ 決算説明資料を「ログミーFinanceの説明書き起こし」により、内容のより深い事業理解へ繋げ、同時に、多くの投資家に配信し、これまで以上に投資家へ情報の裾野を広げていく取組を進めております。
- ・ スポンサーレポートとしてFISCO企業調査レポートを開示しております。
- ・ 自社HP等でのIR/PR情報発信の強化
- ・ 1 on 1 ミーティングの実施等

### ●サステナビリティに関する取組

- ・ 太陽光発電の設置（年間発電量約162,000kwh、CO<sup>2</sup>排出量年間約60.65tの削減を見込む）
- ・ 廃棄物を固形燃料へ再利用「RPF」（Refuse Paper & Plastic Fuel）
- ・ フードドライブ事業参加（食品廃棄ロスを減らし、子ども食堂へ食品を寄付）
- ・ 国際協力活動支援（チャイルド・スポンサーシップ）（貧困に苦しむ支援地域の環境整備を支援）
- ・ 紙のエコ化（卵の殻のリサイクル）エコペーパー「CaMISHELL®」の使用

### ●人的資本経営を意識した取組

- ・ 事業推進の核となる人材の育成
- ・ 教育制度の拡充
- ・ 海外人材の活用
- ・ 女性管理職の登用
- ・ 男性の育児休暇取得
- ・ 奨学金返還支援手当の導入
- ・ 社員持株会奨励金付与率を5%から50%に増額し、福利厚生の実施により、社員と会社とのエンゲージメント向上を高め、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上。

### ●パートナーシップ構築宣言で協力会社との関係強化

## 4.新経営ビジョンについて／今後の展開



自ら技術と人をつなぎ、世界のステージへ  
Joint・RobotのHEPHAIST

Connecting people and technologies to the global stage  
HEPHAIST for Joints and Robotics

**「自ら技術と人をつなぎ」**

- 能動性：受動的ではなく、主体的に動いていくこと
- 技術と人の橋渡し：我々の技術を必要としている人々や社会に実装する役割

**「世界のステージへ」**

- これまでの技術や領域を超えていく
- 世界で通用する価値を創り出す

## 「改善と進歩」

社員全員が「改善の実感と進歩の実感を得る」

何事も期日を設定する

タスクの先延ばしを防ぎ、集中力を高めて仕事の質とスピードを向上させる



### KyoHAプロジェクトに挑戦する意義

「エンジニアの夢」

➤やりたいこと

「合わせ技の活用（技術のジョイント）」

➤やれること

「社会貢献の実感（日本のミッション）」

➤やるべきこと

【ハード機体】 

● 関節関係設計・量産

**HEPHAIST**  
ヒーハイス株式会社



### 【ヒューマノイドは何が最適か】

災害対応、危険な高所での保守点検、老朽化したインフラの保守や点検作業、放射線が高い

宇宙環境での作業など

「危険な場所の作業を人間に代わって行うことができる」

### 【求められる要素】

- ・パワー(油圧アクチュエータ)
- ・最適な材質
- ・シールなどでの防水性、粉塵対策、錆対策
- ・瓦礫や足場の悪い危険箇所をまたぐために、人のような脚をもち、腿部分を大きく上げたり、膝部分を大きく曲げたりできる関節の可動域、重心バランス

### 1.直動技術



## Joint・Robot



### 2.SRJで培った球面加工技術



### 3.レース部品で経験蓄積したノウハウ



## 5.直近のTOPICS

## ＜「KyoHA（京都ヒューマノイドアソシエーション）」検証機の報告＞

KyoHAは、日本発・純国産ヒューマノイド開発に向けた取り組みとして、1stStepとなる検証機の概要を報告いたします。

本プロトタイプは、今後の技術検証と社会実装を見据えた取り組みの起点であり、ヒューマノイドロボットの実現に向けた基礎検証モデルです。構成部品から完成品に至るまで、すべてを国産で実施。

設計着手から組み立て完了までを約4か月で実施し、短期間での試作・検証を実現。

※ 5月中に復旧 → 再稼働予定

## ＜今後の予定＞

今回報告する検証機を起点に、データ/AIもすべて国産で実現することを目指し、今後は、2種類のヒューマノイドロボットの開発も並行して実施します。

我々は特にパワーモデルを優先して取り組みます。

パワーモデル：油圧／モーターの高出力モデル

俊敏・機能モデル：モーター主体の俊敏モデル

## ＜設立の背景＞

近年、米国の巨大テック企業や、中国のIT・EV・ロボット企業を中心に、ヒューマノイドロボット開発が急速に進展しています。

日本はかつてのロボット先進国としての存在感を示していかなければなりません。

加えて、日本国内では自然災害や労働力不足といった社会課題が深刻化しており、ロボティクス技術への期待が高まっています。

特に、人間に近い動作性能を持ち、極限環境下でも活動可能な「ヒューマノイドロボット」は、次世代の機械システムとして注目されています。

しかし、AIやソフトウェアの進化が進む中で、ハードウェア領域における国産開発体制や産業としての統合的な取り組みは未整備の状況です。

こうした課題を打破すべく、モノづくりの都・京都にて、日本の技術力を結集する新たな産業連携の枠組みとして「KyoHA」を立ち上げました。

(参照日 2026-06-01)

## <我々が実施すること>

### 1. ハードウェア開発の国産連携体制構築

精密部品、アクチュエーター、センサー、油圧制御など、日本が誇る高度な技術を連携させ、ヒューマノイドロボットのハードウェア開発に特化した産学連携ネットワークを構築します。

### 2. 過酷環境下ロボットの開発

第一フェーズとして、災害現場や崩落現場など、過酷な環境下で人命救助・災害対応を担うヒューマノイドロボットの実装を目指し、社会課題の解決と技術検証を両立させます。

### 3. 日本を中核としたサプライチェーン構築

製造・試作・検証・導入までを見据えた国産サプライチェーンの再設計を行い、持続可能な産業基盤を京都・日本から構築します。

### 4. 経済的波及効果と産業競争力の強化

ヒューマノイドの普及は多様な業種との連携を促進し、国内外における日本の産業競争力を強化します。

### 5. ソフトウェア・AI との連携による価値最大化

ハードと連携する AI や制御技術の進化により、柔軟で賢く動けるヒューマノイドの実現を目指します。

(参照日 2026-06-01)

### <チューリッヒ工科大学へ関節ジョイント提供>

コンピューターサイエンスなどの分野において世界的な権威であるチューリッヒ工科大学のフォーカスプロジェクトである『有能なヒューマノイドロボットを生み出す重点プロジェクト』の「オービットロボティクス」チームの最適な関節ジョイント提供パートナーとして指定されました。当社創業者の夢だった「スイスのような精密部品を造って、海外に輸出して外貨を稼ぎ国に貢献したい」に向かって前進することができました。

※ORBIT Roboticsホームページ (<https://www.orbitrobotics.ch>) から「PARTNERS」をご参照いただくと当社ロゴをご確認いただけます。  
(参照日 2026-06-01)

「当社の技術が関節ジョイントとして使われたヒューマノイドロボット紹介動画」





## ヒーハイト株式会社

担当窓口 : 取締役 管理部長 佐々木 宏行

TEL : 049-273-7000

FAX : 049-273-7001

E-mail : [info1@hephaist.co.jp](mailto:info1@hephaist.co.jp)

URL : <https://www.hephaist.co.jp/>

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、様々なリスクや不確定要素により、実際の業績と大きく異なる可能性がございますことを、あらかじめご承知置きくださいますようお願い申し上げます。